

I 教育理念

本校は、生命の尊厳と人間愛を基盤として、対象を思いやる豊かな人間性を育み、専門知識・技術を教授し、社会のニーズに応え得る能力を養い、安全で安心な医療を担う専門職業人を育成します。

II 教育目的

本校における教育は、すべての県民の健康に対して等しく貢献しうる、助産師、看護師、歯科技工士及び歯科衛生士を養成することを目的とする。

学生一人ひとりの個性を大切にし、専門職業人としての自覚と豊かな人間性を養い、科学的な思考力と実践力をもって、対象のニーズに応じたセルフケアの確立に支援できる能力の育成をめざす。

III 助産学科の教育目的

助産師としての専門知識・技術・態度を習得させ、助産と女性のライフサイクルにおける性や生殖をめぐる健康生活への支援ができる人材を育成する。

IV 助産学科の教育目標

- 1 妊婦・産婦・褥婦および胎児・新生児・乳幼児の健康水準が診断できる能力を養う。
- 2 妊娠・出産・産褥が自然で安全に経過し、対象が主体的に育児を行えるよう支援できる能力を養う。
- 3 女性のライフサイクルにおける性と生殖をめぐる健康生活への支援ができる能力を養う。
- 4 多職種と連携・協働しながら社会資源の活用や調整を行える能力を養う。
- 5 母子およびその家族の尊厳と権利を尊重する助産師としての倫理観を養う。
- 6 助産師としての役割と責任を自覚し、専門職業人として自律する能力を養う。
- 7 社会の動向に関心を持ち、主体的に学習する態度を養う。

V 助産学科のカリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）

助産学科では、助産と女性のライフサイクルにおいて、母子とその家族の生命の尊厳を守り、その権利を尊重しつつ、性や生殖をめぐる健康生活への支援を継続的に実践できる人材を育成します。

「基礎助産学」「助産診断・技術学」では、“考え行動しながら学ぶ” 演習形式の授業で基礎知識を学びます。

「地域母子保健」では母子保健施策の現状、「助産管理」では周産期医療システムの現状を学びます。「助産学実習」では、それまで学んだ知識・技術・態度を結びつけながら、助産実践能力を培います。実習後は医療事故とリスクマネジメント、災害への対応を学び、医療の質と安全の保障に必要な知識・技術の強化を図ります。

1. 助産師は、女性とその家族の健康生活の質的向上に寄与できる実践能力が求められる。「助産学概論」では母子と家族の生命の尊厳と権利の尊重、助産師の職業倫理を学ぶ。「助産管理」では、助産師および助産業務に関連する法規と責任について学ぶ。また「人間の性と生殖」「女性のライフサイクル各期の身体的特徴と疾患」「女性と家族の心理・社会学」「女性の健康・生活科学」では、対象である女性と家族の健康生活の在り方と課題について学び対象への理解を深める。これらの知識を基に「助産過程の展開に必要な臨床判断」「助産過程の展開に必要な基礎技術」「助産学実習」では、多様な価値観を持つ生活者としての対象の理解、および支援の実際、助産師の姿勢について学ぶ。
2. 安全で安楽な助産ケアには、科学的根拠に基づく知識・技術が求められる。「人間の性と生殖」「女性のライフサイクル各期の身体的特徴と疾患」「女性と家族の心理・社会学」「女性の健康・生活科学」で、女性のライフサイクル各期における健康生活に関する基礎知識を学ぶ。マタニティサイクル各期における「健康診断に必要な基礎知識」では、母子の健康水準の診断に必要な基礎知識を学ぶ。これらの学習を基に「分娩介助法」、マタニティサイクル各期における「助産診断・技術と支援」では、母子の健康状態の診断と、科学的根拠に基づく支援について学ぶ。さらに、助産学実習では学習した知識と技術を統合し、対象の個別性や継続性を考えつつ、安全で安楽な支援について学ぶ。加えて、専門職業人としての役割を自覚し、助産師の姿勢を養う。
3. 助産師の専門性を発揮するには、助産活動の特徴を理解し多職種と良好な人間関係を保ちながらチームの一員としての役割を遂行する能力が求められる。「助産管理」「地域母子保健」で、社会の現状と課題、助産活動の場とその在り方、周産期医療システムの下での多職種との連携・協働について学ぶ。
4. 女性とその家族に関わる医療も飛躍的に進歩し、最新の医療を受ける対象への支援も求められている。基礎助産学、助産診断・技術学を通して、諸外国の状況や最新の医療状況、ガイドラインについて理解し、科学的根拠に基づく支援について学ぶ。
5. 変わりゆく社会の変化に合わせて助産活動を実践するためには、進んで研鑽を積みその活動を継続していく必要がある。「助産過程の展開に必要な基礎技術」で、助産学における研究の意義や基本的手法および研究過程を理解し、継続学習の必要性を認識する。講義・実習を通して、助産師の専門性を発揮し、自律して活動を展開していけるよう、自ら考え行動する姿勢を養う。

VI 教育課程構成図

